

「ワークネット」では
約9割の方が就職を
果たしています。



就職それ自体が
目的ではなく、就職後の
定着支援にも力を入れています。

うが重視されるようになってきました。というのも、医師が「この患者は復職できます」という診断書を書き、会社側がそれを受け入れたら、本人の病状や能力がどうであれ「復職できてしまう」ものだからです。でも、無理に復職して再発したら、元も子もありません。

Q ワークネットの場合、昨年度の利用者中19名が就職した今年も10月1日の段階で19名が就職しています。利用者のほぼ9割ですね。

金森 そうですね。ここ何年かずっと、利用者の約9割が就職を果たしています。ただ、**BU C**と同じで、就職それ自体が目的ではないですね。就職後にやりがいを持って、安定して仕事をつづけていけることが何よりも大事です。だからこそ、**ワークネット**では就職後の定着

支援に力を入れています。

森永 **きらり**の場合、就職率・定着率といった数字は出しにくいですね。就労に必要な基礎的な力、例えば対人交流や注意・集中の維持、それに自分の病気との付き合い方などの改善に力を入れているため、就労のハードルが高いからです。

ただ、数字には表れない「見えない成果」はたくさんあります。たとえば、たった今お伝えしたように、就労に必要な能力と本人の能力のギャップを埋めて就労に一步步近づけること。あるいは、ご本人が幸せに生活しているための方向性を見出す端緒を提供すること……そういった面で、**きらり**は大きな役割を果たしていると自負しています。

Q そういえば、学生生活に「つまずき」のような大学生が「予防的にきらり」を利用することもあるそうですね。

森永 ええ。たとえば、精神疾患で大学を休学中の学生が、「いずれは復学して、卒業後に就職したいので、そのときに備えたりハビリがしたい」ということで利用されたりします。**きらり**の「心理教育」プログラム（自らの精神疾患についての病識を深め、調子が悪くなったときの上手な対処法などを学ぶ）にだけ参加されるケースも多いです。

3施設それぞれの「強み」について

Q 栄仁会のように、方向性の異なる3つの就労・復職支援施設を持つ医療法人は、ほかにあまりないのでは？

松田 そうですね。そもそも、就労・復職支援施設を持っている医療法人自体が少ないですから……。リワークプログラムを行う施設も、大阪はやや多いですが、京都

にはほんの数ヶ所しかありません。

Q 同じ法人だからこそ、他の施設への移行もスムーズにできますね。

森永 はい。とくに多いのは、**きらり**でリハビリをある程度進めてから、「ベーシックな能力が高まってきたから次はもう少し就労に特化した訓練を行ったほうがいい」ということで**ワークネット**に移行する例です。

逆に、「**BU C**や**ワークネット**を利用してみただけれど、自分には合わない」という方が、**きらり**に移行してくるケースなども多いです。

うつ病やストレス疾患で
一時的に休職中の方が
「BU C」の対象です。



復職後に悩みを

相談できる場として

「フォローアッププログラム」が

再発予防に大きな役割を果たしています。